

## 第8回駿河海岸保全検討委員会 議事要旨

日 時 平成30年11月9日(金) 10:00~12:00  
場 所 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」 501 会議室  
出席者 東京大学大学院 佐藤教授  
名古屋大学大学院 水谷教授  
静岡大学 原田准教授  
国土技術政策総合研究所 加藤海岸研究室長  
静岡県交通基盤部 太田河川砂防局長  
中部地方整備局河川部 三浦河川保全管理官  
中部地方整備局静岡河川事務所 稲葉事務所長

### <議事>

#### ○漂砂管理計画（案）について

- ・大井川の一次元河床変動計算の再現計算では毎年の流砂量が示されており、予測では平均値を入れている。この入れ方の差による計算結果への影響はないのか。その確認をしたほうがよい。
- ・漂砂管理計画案で養浜の土量が記載されているが、粒径の記載がされていない。粒径も大事な条件であるため、粒径に関する記載を追加したほうがよい。
- ・神座に6万 m<sup>3</sup>を還元しても河口の流砂量は2万 m<sup>3</sup>しか増えない。また、河口より左岸側には大井川港があるため、左岸側の海浜の回復に寄与しない。本当に必要な土砂量を左岸側に直接入れるといったことも総合土砂管理の中で考えたほうがよい。
- ・今後の検証の観点等から、養浜位置を決めた過程も示したほうがよい。

#### ○モニタリング計画（案）について

- ・三重県の熊野市の海岸で、CCTV カメラを設置し汀線の経時変化をモニタリングしている。一度システムを作ってしまうと容易に実施可能な方法であるため、検討してはどうか。
- ・簡易で機動的で精度がある程度確保できる観測方法をぜひ活用すべき。ドローンの写真測量等の新たな手法を考えたほうがよい。
- ・モニタリングを踏まえて、シミュレーションで将来予測の精度を上げていくというようなことを考えたほうがよい。新しいデータを入れる前後のシミュレーション結果の違いをチェックするとよい。
- ・面での測量は、将来的に解析の予測に使えるようになる。面でできる限り継続したほうが良い。陸上もドローンによる写真測量等で実施するのがよいのではないか。
- ・LP までの精度は必要ないので、ドローンによる写真測量のように頻度高く機動的に実施できる方法のほうが良い。

- ・モニタリングの各調査は今後引き継いでいけるよう、何に使用するのか等を記載する必要がある。

#### ○T.P.+8.2m 区間における構造検討の中間報告について

- ・背後の流速等を考えると、盛土が流出して擁壁が機能したほうが有利である。一方で、津波の発生確率に留意し日常の利用を考えると盛土案がよいようにも思う。トレードオフとなるので、地元の意向等もよく聞いたほうがよい。
- ・盛土がない場合は、法肩に防護柵等を設けたほうがよい。
- ・砂防でも突起物において負圧を減らすことをやっているなので、参考にしていただきたい。

#### ○今後の予定

- ・大井川流砂系総合土砂管理計画検討委員会で、大井川から供給可能な土砂量について現実的な目標を設定する予定である。次回はその土砂量の条件で、海岸としてどのような対応が必要か検討し、提示することを予定する。